

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2019年6月11日
【四半期会計期間】	第70期第2四半期（自 2019年2月1日 至 2019年4月30日）
【会社名】	泉州電業株式会社
【英訳名】	SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西村 元秀
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市南金田一丁目4番21号
【電話番号】	(06)6384-1101
【事務連絡者氏名】	専務取締役兼執行役員管理本部長 宮石 忍
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市南金田一丁目4番21号
【電話番号】	(06)6384-1101
【事務連絡者氏名】	専務取締役兼執行役員管理本部長 宮石 忍
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第1四半期連結会計期間より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第2四半期 連結累計期間	第70期 第2四半期 連結累計期間	第69期
会計期間	自 2017年11月1日 至 2018年4月30日	自 2018年11月1日 至 2019年4月30日	自 2017年11月1日 至 2018年10月31日
売上高 (百万円)	40,939	42,404	82,038
経常利益 (百万円)	1,943	2,263	4,105
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,341	1,520	2,371
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,331	1,559	2,259
純資産額 (百万円)	37,923	39,263	38,368
総資産額 (百万円)	66,064	68,556	67,311
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	133.02	153.93	236.36
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	57.2	57.1	56.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,342	839	3,660
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	849	820	2,648
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	524	748	1,032
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	14,809	14,085	14,798

回次	第69期 第2四半期 連結会計期間	第70期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年2月1日 至 2018年4月30日	自 2019年2月1日 至 2019年4月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	74.05	76.54

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当社グループは、電線・ケーブル事業の単一セグメントであり、セグメント情報の区分に重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移したものの、米中貿易摩擦の長期化に伴う中国経済の減速や、海外経済の動向と政策に関する不確実性などもあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの係わる電線業界におきましては、電線の主材料である銅の価格が、1トン当たり期中平均737千円と前年同期平均799千円に比べ7.8%下落いたしました（銅価格の推移、1トン当たり期初720千円、安値680千円（2019年1月）、高値770千円（2019年2月）、第2四半期末760千円）。また、建設・電販向けの出荷量は、前年同期に比べ増加基調で推移いたしました。

このような情勢のもとで当社グループは、提案型営業の推進、配送体制の強化、新規得意先の開拓及び既存得意先の深耕、新商品の拡販など積極的な営業展開を図りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

財政状態

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度末との比較・分析を行っております。

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、資産合計は68,556百万円で前連結会計年度末に比べて1,244百万円の増加となりました。

流動資産は44,260百万円で現預金が減少したものの、売上債権と商品が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて516百万円の増加となり、固定資産は24,296百万円で前連結会計年度末に比べて728百万円の増加となりました。

負債につきましては、負債合計は29,292百万円で前連結会計年度末に比べて349百万円の増加となりました。流動負債は26,530百万円で仕入債務が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて349百万円の増加となり、固定負債は2,762百万円で前連結会計年度末に比べて0百万円の減少となりました。

純資産につきましては、純資産合計は39,263百万円で前連結会計年度末に比べて895百万円の増加となりました。増加の主な要因は、自己株式の取得による減少があったものの、利益の内部留保により利益剰余金が増加したことなどによります。

経営成績

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、銅価格の下落による販売価格の低下要因はあったものの、民間設備投資向け電線の需要が底堅く推移し、建設需要も堅調に推移したことにより、売上高は42,404百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は2,150百万円（前年同期比18.0%増）、経常利益は2,263百万円（前年同期比16.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,520百万円（前年同期比13.4%増）となりました。

なお、当社グループは、電線・ケーブル事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの経営成績の記載を省略しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ712百万円減少し、14,085百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、839百万円(前年同四半期は1,342百万円の資金の増加)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益2,212百万円、減価償却費234百万円等の増加要因に対し、売上債権の増加691百万円、商品の増加287百万円及び法人税等の支払額755百万円等の減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、820百万円(前年同四半期は849百万円の資金の減少)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出1,176百万円、保険積立金の積立による支出119百万円等の支出に対し、貸付金の回収による収入253百万円、投資有価証券の売却による収入154百万円等の収入によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は、748百万円(前年同四半期は524百万円の資金の減少)となりました。これは主に自己株式の取得による支出413百万円、配当金の支払298百万円等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の増 加能力等
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社 大阪物流 センター	大阪府 豊中市	電線・ケーブ ル	事務所・ 倉庫	3,467	3,467	自己資金	2017年6月	2019年5月	土地 9,111.03㎡ 建物 9,675.08㎡

(注) 1. 上記金額には、消費税等を含んでおります。

2. 当社大阪物流センターの新設計画は、投資予定金額の総額を3,300百万円から3,467百万円に、完了予定年月を2019年2月から2019年5月に、完成後の増加能力等を建物10,260.53㎡から9,675.08㎡にそれぞれ変更しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	43,200,000
計	43,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年4月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年6月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,800,000	10,800,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	10,800,000	10,800,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
自 2019年2月1日 至 2019年4月30日	-	10,800,000	-	2,575	-	3,372

(5) 【大株主の状況】

2019年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
みずほ信託銀行株式会社 退職給 付信託 昭和電線ホールディング ス他口 再信託受託者 資産管理 サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海 アイランド トリトンスクエア オフィス タワーZ棟	1,000	10.18
ビービーエイチ フォー フィデリ ティ ロー プライズド ストック ファンド(プリンシパル オール セクター サポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行決済事業部)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	890	9.06
西村 元秀	大阪府豊中市	783	7.97
西村 陽子	大阪府吹田市	529	5.38
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	398	4.05
西村 和彦	大阪府吹田市	348	3.55
泉州電業従業員持株会	大阪府吹田市南金田1丁目4番21号	263	2.68
高橋 京子	相模原市南区	225	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	211	2.15
泉州産業株式会社	大阪市北区兔我野町2番4号	207	2.10
計	-	4,857	49.45

(注) 1. 当社は自己株式977,181株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 昭和電線ホールディングス他口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社の所有株式は、退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は昭和電線ホールディングス株式会社が留保しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 977,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,815,900	98,159	-
単元未満株式	普通株式 7,000	-	-
発行済株式総数	10,800,000	-	-
総株主の議決権	-	98,159	-

【自己株式等】

2019年4月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
泉州電業株式会社	大阪府吹田市南金田1丁目4番21号	977,100	-	977,100	9.04
計	-	977,100	-	977,100	9.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年2月1日から2019年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年11月1日から2019年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,432	14,752
受取手形及び売掛金	19,124	19,291
電子記録債権	4,875	5,473
有価証券	48	8
商品	4,065	4,361
その他	258	412
貸倒引当金	61	37
流動資産合計	43,744	44,260
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,809	4,686
機械装置及び運搬具(純額)	279	268
土地	8,623	8,562
リース資産(純額)	106	94
その他(純額)	3,534	4,726
有形固定資産合計	17,353	18,337
無形固定資産		
のれん	10	7
その他	211	185
無形固定資産合計	221	193
投資その他の資産		
投資有価証券	1,380	1,292
長期貸付金	255	31
繰延税金資産	818	836
その他(純額)	4,021	4,029
貸倒引当金	484	424
投資その他の資産合計	5,992	5,764
固定資産合計	23,567	24,296
資産合計	67,311	68,556

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,688	23,818
短期借入金	115	105
リース債務	46	46
未払法人税等	814	742
賞与引当金	612	609
その他	904	1,208
流動負債合計	26,180	26,530
固定負債		
リース債務	98	78
繰延税金負債	98	100
役員退職慰労引当金	528	-
退職給付に係る負債	1,847	1,898
資産除去債務	6	6
その他	182	678
固定負債合計	2,762	2,762
負債合計	28,943	29,292
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,575	2,575
資本剰余金	3,372	3,386
利益剰余金	33,395	34,617
自己株式	1,482	1,863
株主資本合計	37,860	38,716
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	425	403
為替換算調整勘定	68	87
退職給付に係る調整累計額	90	73
その他の包括利益累計額合計	403	417
非支配株主持分	105	129
純資産合計	38,368	39,263
負債純資産合計	67,311	68,556

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
売上高	40,939	42,404
売上原価	34,641	35,735
売上総利益	6,298	6,668
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	633	627
貸倒引当金繰入額	1	32
給料及び賞与	1,399	1,434
福利厚生費	425	422
賞与引当金繰入額	567	604
役員退職慰労引当金繰入額	22	8
退職給付費用	132	146
旅費交通費及び通信費	155	160
減価償却費	175	202
のれん償却額	22	2
その他	940	940
販売費及び一般管理費合計	4,475	4,518
営業利益	1,822	2,150
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	16	15
受取家賃	50	60
仕入割引	24	24
為替差益	6	2
その他	57	70
営業外収益合計	163	179
営業外費用		
支払利息	0	0
減価償却費	18	27
支払保証料	3	3
投資有価証券償還損	-	13
その他	19	20
営業外費用合計	42	66
経常利益	1,943	2,263
特別利益		
固定資産売却益	-	6
受取保険金	75	-
特別利益合計	75	6
特別損失		
固定資産除却損	-	57
特別損失合計	-	57
税金等調整前四半期純利益	2,019	2,212
法人税、住民税及び事業税	675	687
法人税等調整額	11	13
法人税等合計	664	673
四半期純利益	1,354	1,539
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,341	1,520

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
四半期純利益	1,354	1,539
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56	21
為替換算調整勘定	15	24
退職給付に係る調整額	17	16
その他の包括利益合計	23	20
四半期包括利益	1,331	1,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,313	1,535
非支配株主に係る四半期包括利益	17	24

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,019	2,212
減価償却費	198	234
のれん償却額	22	2
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	89	74
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	11	528
賞与引当金の増減額(は減少)	26	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	83
受取利息及び受取配当金	24	20
支払利息	0	0
投資有価証券償還損益(は益)	0	13
固定資産売却損益(は益)	-	6
固定資産除却損	5	57
受取賃貸料	50	60
売上債権の増減額(は増加)	1,204	691
商品の増減額(は増加)	379	287
仕入債務の増減額(は減少)	1,554	121
未払消費税等の増減額(は減少)	8	264
その他	276	272
小計	1,933	1,574
利息及び配当金の受取額	24	20
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	614	755
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,342	839
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2	248
定期預金の払戻による収入	30	214
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	199	79
投資有価証券の売却による収入	161	154
有形固定資産の取得による支出	971	1,176
有形固定資産の売却による収入	1	73
貸付金の回収による収入	33	253
保険積立金の積立による支出	114	119
保険積立金の解約による収入	175	53
その他	36	53
投資活動によるキャッシュ・フロー	849	820
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	5	10
自己株式の取得による支出	241	413
配当金の支払額	252	298
その他	25	26
財務活動によるキャッシュ・フロー	524	748
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	16
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	23	712
現金及び現金同等物の期首残高	14,833	14,798
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,809	14,085

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、2019年1月30日開催の第69期定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打ち切り支給を決議しております。支給時期につきましては、各取締役及び監査役の退任時とする予定であります。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」の全額を取崩し、打ち切り支給に伴う未払額511百万円を固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、当第2四半期連結会計期間末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第2四半期連結会計期間末日満期手形等の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年4月30日)
受取手形	- 百万円	633百万円
電子記録債権	-	338
買掛金(期日振込)	-	395

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
現金及び預金勘定	15,443百万円	14,752百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	633	666
現金及び現金同等物	14,809	14,085

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年1月25日 定時株主総会	普通株式	252	25	2017年10月31日	2018年1月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月4日 取締役会	普通株式	250	25	2018年4月30日	2018年7月3日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2018年2月28日開催の取締役会決議により、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式80,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が241百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が1,250百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	298	30	2018年10月31日	2019年1月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月4日 取締役会	普通株式	343	35	2019年4月30日	2019年7月2日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2018年12月10日開催の取締役会決議に基づき、自己株式150,000株の取得を行い、当第2四半期連結累計期間において自己株式が413百万円増加しました。また、2019年2月22日開催の取締役会決議に基づき、当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式17,900株の処分を行い、当第2四半期連結累計期間において自己株式が33百万円減少し、資本剰余金が14百万円増加しました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が3,386百万円、自己株式が1,863百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、電線・ケーブル事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
1株当たり四半期純利益	133円02銭	153円93銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,341	1,520
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,341	1,520
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,083	9,878

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2019年6月4日開催の取締役会において、以下のとおり、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

株主還元の充実と資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため

2. 取得に係る事項の内容

(1) 取得対象株式の種類

当社普通株式

(2) 取得し得る株式の総数

150,000株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.53%)

(3) 株式の取得価額の総額

500百万円(上限)

(4) 取得期間

2019年6月5日から2019年10月31日まで

(5) 取得の方法

東京証券取引所における市場買付

2【その他】

2019年6月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額 343百万円

(ロ) 1株当たりの金額 35円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2019年7月2日

(注) 2019年4月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年6月6日

泉州電業株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高木 勇 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 土居 一彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている泉州電業株式会社の2018年11月1日から2019年10月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年2月1日から2019年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2018年11月1日から2019年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、泉州電業株式会社及び連結子会社の2019年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。